

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書5章1-11節＞

①シモンはすでに弟子だった！(4:38) だのに漁師でもあった？

「**神の御言葉を聞こうとして**」(1)人々がイエス様の所に押し寄せて来た横で漁をしていたシモン。何か妙な感じがします。シモンはイエス様を信じてはいなかったのでしょうか？ そんなはずはありません。なぜなら、イエス様はシモンの家に泊まり、しゅうとめの熱を下げられたのですから(38-39)。問題はどの程度の信仰だったかです。

②「先生」(5)から「主よ」(8)への変化！ 何がシモンを変えたのか？

主から「**沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい**」(4)と言われた時、シモンはこの日の漁の結果から漁師として取れないと思いましたが、「**しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう**」(5)と言って従いました。すると、自分の判断とは全く異なる大漁となったのです。シモンは驚きました。そして、まだ本当にはイエス様がどのような方であるかは分かっていなかったことに気づいたのです。前は「先生」(5)と呼びかけていたのを「主よ」と呼び変え、イエスの足もとにひれ伏して、「**主よ、私から離れて下さい。私は罪深い者なのです**」(8)と言いました。自分がイエス様にこれまで取っていた態度に恐れを覚えたのです。適当に主イエス様を信じることは良いことではなく悪いことなのだという事をシモンは深く悟ったのです。聖書の「罪」の意味(的を外して矢を射ていること)とそれに気づかされることを思われます。

③気づかぬ者を叱らず、待ち、気づくように導いて下さるお方！

しかしそのシモンに主は、「**恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる(生け捕りにする)漁師になる**」(11)と言われたのです。主は私たちを赦し、生かし、用い給うお方なのです！ 気づかないシモンを叱るのではなく、気づくその時を待ち、そして、気づくように導いて下さるお方なのです。 だからこそ、私たちがまたこの方に畏れをもって、しかし恐れずに近づくことができるのです(ヘブライ 4:14-16)。この大きな恵みの福音を人々に伝えることが私たちに託されたのです！  
「生き捕る」と言われた主イエスのなさり方に見倣いたいと思います。